

第 1 回総合計画審議会議事要旨

1 開催日時 平成30年9月28日(金)
午後6時00分から午後8時30分

2 場 所 流山市役所3階庁議室

3 出席者(16人) ※敬称略

(1) 審議会委員 (委員の構成)

井原 久光 (学識経験を有する者)
垣野 義典 (学識経験を有する者)
籠 義樹 (学識経験を有する者)
永田 隆二 (学識経験を有する者)
和嶋 隆昌 (学識経験を有する者)
杉浦 明 (教育委員会の委員)
中嶋 清 (農業委員会の委員)
大津 直之 (公共団体等の職員)
中村 貢 (公共団体等の職員)
新保 國弘 (市民公益活動団体を代表する者)
田中 由実 (市民公益活動団体を代表する者)
石田 光規 (市民を代表する者)
井上 菊夫 (市民を代表する者)
大河原 彰 (市民を代表する者)
熊谷 嘉子 (市民を代表する者)
野村 正 (市民を代表する者)

※欠席委員(2人)

児島 正人 (公共団体等の職員)
鈴木 孝夫 (公共団体等の職員)

(2) 出席職員等

流山市長 井崎 義治

(事務局職員)

総合政策部部長	山田 聡
総合政策部次長兼企画政策課長	須郷 和彦
総合政策部企画政策課課長補佐	秋元 忠勝
総合政策部企画政策課主任主査	伊藤 紀幸
総合政策部企画政策課主任主事	松岡 高希

総合政策部企画政策課主任主事 山崎 智明
株式会社富士通総研（総合計画策定支援業務受託者） 2名

(3) 傍聴（3名）

4 議 題

- (1) 諮問について
- (2) 審議会の進め方について
- (3) 本市の現状と課題について
- (4) 次回の会議について
- (5) その他

5 配付資料

- 資料1-1 流山市総合計画審議会委員名簿
- 資料1-2 流山市次期総合計画の策定について（諮問）
- 資料1-3 審議会の進め方について
- 資料1-4 本市の現状と課題について

6 議事内容

- ・ 議事に先立ち、委嘱、委員の自己紹介、会長の選出を行った。

【会長の選出】

- ・ 附属期間に関する条例に基づき、会長は互選で井原委員が選任され、会長の職務代理は、会長の指名により熊谷委員が選任された。

会長：井原委員

会長職務代理：熊谷委員

(井原会長挨拶)

- ・ 流山市民ではないが、これまでも行財政改革審議会、市民参加推進委員会など様々のご縁を感じている。今回も総合計画審議会という市の重要な審議会の会長を精一杯務めさせていただきたい。

(1) 諮問について

- ・ 井崎市長より、流山市総合計画審議会へ諮問。
（「資料1-2 流山市次期総合計画の策定について（諮問）」）
- ・ 井崎市長より、諮問にあたっての挨拶。

(2) 審議会の進め方について

- ・ 事務局より「資料1-3 審議会の進め方について」の説明を行った。

(3) 本市の現状と課題について

- ・ 事務局より「資料1－4本市の現状と課題について」の説明を行った。

(井原会長)

- ・ 本資料の内容を踏まえ、次回以降に議論を行っていききたい。その際、データや直近の動向にばかりとらわれ、近視眼にならないように留意して検討を進めていく必要がある。流山市は今の状態が良いため、現状を変えようという危機感が薄れやすいことが問題であると感じる。

(4) 次回の会議について

- ・ 事務局より次回の会議の案内を行った。

(5) その他

(A委員)

- ・ 次回の会議では、まちづくりの主要課題についての議論ということだが、それぞれの問題の重要度は対象となる年齢やライフステージなどの市民の属性によって異なるのではないか。ブランディングの観点からも想定されるターゲットの共通認識が必要ではないか。

(井原会長)

- ・ 課題は現状から想定されるものと、目指すべき姿から逆算して設定するものがある。20年後の流山市を見据えて課題の整理を行いたいと考えている。

(A委員)

- ・ 高齢者の増加が見込まれるなかで、高齢者をブランディングの対象とするか、今までのように子育て世代がターゲットとなるのかも検討が必要と考える。また、子育て世代のなかでも行財政の観点からは、特に所得の高い子育て世代の転入が望ましいなど、様々なターゲットの想定が考えられるのではないか。

(B委員)

- ・ ターゲットを意識してキャッチフレーズを設定することがブランディングとは限らない。例えば、「物流日本一のまち」ということも考えられる。住み続けたいまちであるため、流山市が他の都市と何が違うのかを考える必要がある。

(C委員)

- ・ 子育て世代が対象の場合でも、老後は住民全員に関連している。直近のターゲットは20～30代の場合でも重要なテーマと考える。例えば、市民意識調査の結果では「高齢者支援」、「障害者（児）支援」が満足度が低く、重要度が高いに分類されている。その要因は把握しているのか。
- ・ また、要介護率についてもデータを確認する必要があると考える。

(事務局)

- ・ 満足度・重要度の要因については把握できていない。要介護度については、本日参考資料として配付した「流山市次期総合計画基礎調査報告書」に介護保険認定者数を記載している。

(D委員)

- ・ 10年後の流山市を考えるにあっては、部分最適ではなく全体最適の観点が重要と考える。子育て世代か高齢者かではなく、子育て世代が老後も安心して住めるまちづくりを進めることで、結果としてどの世代にとっても住み続けたいまちにしていくことが重要ではないか。

(E委員)

- ・ 長期的視点で考えるのであれば、ブランディングの考え方そのものを疑う必要があるのではないか。市外の人を呼ぶ込むことと、市内の人々の快適さは別物と考える。

(井原会長)

- ・ ブランディングという言葉が先行しているが、過度にとらわれないように注意したい。
- ・ 終盤で様々な議論が出来て良かったと感じている。会議を夕方を設定しているのも、様々な立場の方々から意見を聞くためである。次回以降も活発な議論をしていきたい。

以上